
ハロゲン兄弟のフッソ君

六月一日 一休

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハロゲン兄弟のフツソ君

【Zコード】

Z0442F

【作者名】

六月一日 一休

【あらすじ】

この小説は全国の学生さんを応援する小説です。ハロゲンなんざ知らなくつても生きていけるぜ！つて人にとってはくだらない作品になつております。ただし前半が絵本チックな物語風になつているので、学生さんにとってなんじやこりやな作品になつているかもしません。

(前書き)

この小説は、とある講師の閃きとその生徒の感性のコラボレーションをテーマからお送りいたします。

ある所にフッソ君と云々前のフッ化水素の男の子がいました
フッソ君には一人のお兄さんは一人のお姉さんがいました
一番上のお兄さんは塩化水素のヨウ君
一番下のお兄さんは臭化水素のショウ君
三番目のお姉さんは塩化水素のエンちゃん
四人の兄姉弟はあまり良好な関係ではありませんでした
末のフッソ君はいつもお兄さんやお姉さん達にいじめられていきました
やーい、フッソー、弱酸のフッソー
硝酸銀水溶液に入つても何も沈殿しないフッソー
アハハハハ、だつやーー
フッソ君はお家にも入れさせられません
兄さん、ボクもお家に入れさせて
フッソ君はお家のお前でお願いしますが、相手にしてもうれません

だつてお前、家のガラス溶かすじゃんか

雨が入つてきたり、俺達溶けちゃうからな

あんたは入つて来ないですかねーだい

お兄さん達は口々に言こます

お家に入れてもらえないフツソ君はお日様の上までやつてきました

セレナの辺りで一番お日様に近い場所でした

お日様、お日様、どうか雨を降らさないで、ボクだつて水に溶けやすいのに、兄さん達はボクがお家のガラスを溶かしてしまつかつて入れてくれないし、ポリエチレン製のお家を買うお金はないんだ

事情を聞いてかわいそつと涙つたお日様は文字通り太陽のような笑顔で答えました

私がそのお兄さん達を懲らじめてあげましょー

お日様はその輝きを強く増し始めました

すると辺りの気温がぐんぐん上がつてこきます

こきなつ気温が上がり出し、お兄さん達は驚き慌てました

あああああああ

どんどん上がりつてこく気温は、元からやんは耐えきれなくなつて

蒸発してしまいました

お口様はやりて気温を上げてこります

「わあああああ

続いてショウ君も蒸発してしまいました

お口様は構わず気温を上げ続けます

マウ君はもはや蒸発寸前の状態で苦しみます

そこにケロッとした顔をしているフッソ君が帰つてきました

ナゼ、お前は平氣なんだ。同じ、ハロゲン化水素なの……

その言葉を最期に、つこにマウ君も蒸発してしまいました。

尚も平然としているフッソ君はお兄さん達が消えていった空に向かって言いました

だつて、ボクは水素結合を持つてゐるから

「 兄さん達より沸点が高いんだよ。圧倒的！」

「…………」

「 おこ、何か言えマシダ」

「……何ですかそのやたらと小難しい単語を頻発することも関わらず
絵本チックで後味の悪い物語は……」

「口に入れたのか！ダメだぞ、ハロゲン化水素は有毒だ！スプ
ーン一杯のフッ化水素を誤飲して死亡した事例だつてあるんだぞ！
(ウ キペデ ア調べ)」

「誰がそんな話をしましたか。後味の悪い“物語”って言つたじや
ないですか、オブチ先生」

「ああ、何だそつちか。全く、紛らわしい事言つなよ」

「ハッ倒しますよ

「ハロゲン化水素の中でのフッ化水素の特異性を分かり易くイメー
ジ化した物語だ。ハッピーエンドを求める方が間違つてるぞ」

「ムシですかそうですか。はあ、それじゃあ軽く解説やつて上がり
ましょう」

「そだな。と言つても、読めば大体の内容は掴めるとは思つが。一
応解説すると、まず、物語中にもあるように、ハロゲン化水素は水
によく溶ける」

「雨が入つてくるとか降らさないでつてトコですね。話の流れ上お
兄さん達とフッソ君が別々に言つてて分かり難くなつてますが、ど
れも水には溶けるんですよね」

「それから、先にも言つたが、ハロゲン化水素の中でもフッ化水素

には他と違う性質を持つんだ。弱酸であるとか、ガラスを溶かすつてト「コだな」

「ああ、確かに塩化水素を始め、他の三つは強酸ですもんね。……あれ、もしかして塩化水素のエンちゃんって、塩化水素水溶液である塩酸とかけてたんですか?」

「そうともさ。気付いてくれてありがと」

「いえ、それほどでも。ところで、ガラスを溶かしてしまつフッ化水素には当然ガラス製容器が使えないのは分かりますが、フッソ君が言つていたようにポリエチレン製容器に保存するんですね」

「まあそういうが、ぶつちやけ反応されしなければ容器の素材はどういいんだよ」

「え、別にポリエチレン製でないといけないって訳ではないって事ですか」

「そうだ。ただガラス製とポリエチレン製が多く流通してるってだけ」

「なるほど」

「えつと、あとは」

「硝酸銀水溶液に入れた時の話ですね」

「ああ、そうか。フッ化水素以外のハロゲン化水素だと沈殿物が生じるが、フッ化水素だけは沈殿が起こらないって話な。セリフ通り

そのまんま。フッ化水素と硝酸銀の反応によって生成されるモノは融解度が高いから沈殿せずに水に溶けるんだ。因みにここではどんな反応が起こるのかは解説しないから、各自確認しつづけ

「手抜きですか」

「やかましい。文句なら今一歩学の足りてない作者に言え」

「うわあ、またそういう事言ひ……」

「ふん、ムシだ。んで、最後に兄さん達が次々と蒸発してつた所の話だな。あれは実は蒸発の順番に意味があつて、沸点の低い順に蒸発してつてるんだ。最後までフッソ君が蒸発しなかつたのは、それだけぶつちぎりに沸点が高いって事だよ」

「ぶつちぎりって、どれくらいなんですか」

「尤もな質問だ。実は、ぶつちぎりとはいってもそれはハロゲン化水素同士での話であつて、実際にはフッ化水素でも20程度、その他のハロゲン化水素については氷点下で沸点に達してしまつから、常温では水溶液にしておかないとほぼ气体なんだ。そこらとこ勘違いしないように注意しろよ」

「はい」

「よし、これで一応物語の解説は以上だが、ハロゲンの話は当然これで全てではない。他にもハロゲン単体の話とか、ハロゲンの化合物が日常生活にどのように使われているかとか、色々ある。今回やつたハロゲン化水素の話だつて反応式だとかの細かい話はしてないしな。ただまあ、こういうキャラクター化されたモノからハロゲン

に興味を持つて、自分で意欲的に学んでいくつもりつづてのが今回の目的だ。まずは興味を持つトシトから始めないとな。うん、俺から言いたい事はこんなもんだ。何か質問はあるか?」

「その他の話の方はしてくれないんですか?」

「作者の学に余裕が無い。以上! 本日の講義を終わります!」

「強引に締め切らうんですね……」

「ナニカ?」

「いえ、ありがとうございました!」

fin.

(後書き)

どうも。オブチ先生曰く、“今一歩学の足りてない作者”的一休と申します。

まずは読者様へ

読んで頂きありがとうございました。

この小説が、読んで下さったあなたの力に少しでもなれたなら幸いです。

因みに、ハロゲンって何があつたんダッケ？ 覚えてないヨ！
忘れちゃうゼ！

つて方には、同一作者の小説からトべる『元素記号を覚えよ』という作品の感想欄で、初心者さんといひ読者様から頂いたコメント、誰でも覚えられるハロゲンの語呂合わせを公開します。
是非ご覧ください。

一休はあの語呂合わせ、神の所業だと思いました。
そのついでに『元素記号を覚えよ』にも田を通してもうえると嬉しいです。

役に立つ保証は二つにはあつませんがへへへ

そして、我が化学の講師へ

先生の作ったあの話を大部分パクった上に、それをネット上に一休の作品として公開する事を快く承諾して頂きありがとうございました。

先生がここに辿り着く確率は、このサイトを教えてないので“ほぼ皆無”だと思いますが、この場を借りて改めてお礼申し上げま

す。

では、こいつがまた僕にかでお金こかるいよと楽しんでいたんですね

す。
（――）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0442f/>

ハロゲン兄弟のフッソ君

2010年10月20日18時07分発行